

理解度&釣れる度100%

丸

マルキュー

優良 餌本



実寸大  
エサ付け  
&  
オモリ  
解説付き

# ハラスエサ パワーブック

POWER BOOK  
2010

夏秋



規約を約束する餌本です

## 釣れるブレンド20種以上を網羅!!



# へらエサ POWER BOOK

2010



02

アウトライン  
夏～秋のへら鮒釣り

04

両ダンゴの浅ダナ釣り

08

両ダンゴのチョーテン釣り (長ハリス)

10

両ダンゴのチョーテン釣り (短ハリス)

12

両ダンゴのチョーテン釣り (ペレット)

14

両ダンゴのチョーテン釣り (野釣り編)

18

両ダンゴの底釣り

20

グルテンセットの底釣り

22

ヒゲトロセットのチョーテン釣り

24

ヒゲトロセットの浅ダナ釣り

27

ウドンセットのチョーテン釣り

30

ウドンセットの浅ダナ釣り

32

その他夏～秋の釣り

## アウトライン

## 夏から秋のへら鮒釣り

水温が上昇しへら鮒の活性はピークに達する夏。野釣りでは乗っ込みが終了し、深場の宙釣りがメインになる。両ダンゴで活発なウキの動きが期待できるのもこの時季だが、山上湖や準山上湖ではまとまった釣果を得るにはへら鮒のタナを探りながら攻めることが大切だ。今年も「ガッテン」、「天々」や「グルバラ」といった粘りがやすい魅をブレンドしたエサを中心に、ムクトップと60〜75cmの長ハリスで追わせる釣りが主流になるだろう。

その一方で、最近では野釣りでもへら鮒がウズブリやすくなっている。水面直下まで浮くへら鮒を浅ダナ釣りで狙うのも面白い。両

ダンゴが中心になるが、日曜日ともなるとアタリがでにくくなる。「ヒゲトロ」や「二発」といった定番のくわせエサのほか、最近では「力玉」や「感嘆」といった固形物も食い渋りに効果を発揮している。

ここでのポイントはくわせエサにより下バリスの長さが変わってくるが、あくまでウキの動きを見ながらアジャストすることが大切だ。例えば、「ヒゲトロ」セットは上10cmと下25cm、「力玉」や「感嘆」それに「一発」では上10cmと下40〜50cmといった使い分けとなる。管理釣り場でもへら鮒の状態によっては野釣りのような長ザオ両ダンゴのチョーテン釣りが効く釣り場も

あるが、やはり釣果が伸びるのが浅ダナ釣りだ。両ダンゴでははしゃぐへら鮒をいかにして食わせるかがキーポイント。20 cmと27 cmのハリスで軽くてまとまりがいい「ガッテン」をベースに、「GTS」や「浅ダナ一本」をブレンドしたエサなどが効果的だ。

しかし、休日ではダンゴエサでは太刀打ちできないことが多いため、「ヒゲトロ」や「魚信」を使ったセット釣りに実績がある。ポイントとなるバラケは水中で大きくバラけて急速集魚する「パワー・X」をメインに、ボソを活かしたままタナまで持たすことができる「BB

フラッシュユ、ボソに仕上がった適度な重さがある「プログラム」などをブレンドするバラケがオススメだ。季節が秋に移ると管理釣り場では昨年大フィーバーした短ザオチヨーチンの短バリスのセット釣りが今年も面白そうだ。8 cmと20 cmといった短いハリスで

エサをしつかりなじませて、縦サソイを繰り返してアタリを狙うスタイル。水深がある管理釣り場全般に通用し、競技会ではダントツの釣果がでるだけに見逃せない釣り方だ。

また、秋本番ともなる10月になると放流が早い釣り場では新べら放流が開始される。新べらは落下途中のエサに興味を示すため、60 cmと70 cmといった長ハリスの両グルテンの釣りで枚数が伸びる。現在では大型べら中心に放流している釣り場が多いのでアタリっ切りになることは少ないものの、



新べら特有のムズツと押さえるアタリと強烈な引きが楽しめる。ウキはムクトップを使って落ち込みの変化に近いアタリを狙っていく。グルテンは「わたグル」と「グルテン四季」のブレンドに定評がある。

# 両ダンゴの浅ダナ釣り

## ●軽く使えて食いも抜群のブレンド

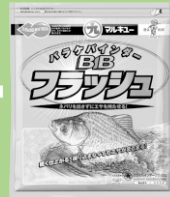
ガッテン400cc＋  
パウダーベイトヘラ200cc＋  
BBフラッシュ200cc＋水200cc



+



+



+



### ●作り方

すべての麩エサをボウルに入れてから水を注ぎ指を熊手状にしてかき混ぜる一緒練り。しばらく放置して安定させてから使う。

### ●使い方のコツ

ひと握り小分けし、5回くらい押し練りを加えて打ち始める。持たせ具合の調整も押し練りが基本だが、練ってしまうとダメな場合は、「グルバラ」を加えてみる。ジャミなどが多く持たないようなときは、「ダンゴの底釣り夏」を加えてみよう。逆にアタリが少なく、ウキを動かしたいときは、ボソタッチにするため、「バラケマッハ」を加える。

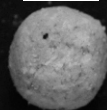
### ●特徴

全ての素材が軽いものなので軽く仕上がり、程よくバラけて芯残りする。練っても軽いので浅ダナでの食いが抜群。小さいウキでの大エサ使いもできる。練らずに粘りがでて、手揉みで持たせ具合の調整が簡単なので、カラツン対策がしやすい。

### ●エサの大きさ

実寸大

小さめ



大きめ





## ここがポイント①

### サワリがあるのに 食いアタリがでないとき

理由としては、エサが大き過ぎる、ウキが  
大き過ぎる、ハリスが短い、エサがバラケ過  
ぎるなどが考えられる。なかでも可能性が高  
いのがエサのバラケ過ぎ。まずは使っている  
エサをひと握りにとって、練りを加えて様子  
をみる。これでアタリがなくなるようなら、エ  
サは元に戻してハリスを長くする。それでも  
改善できないときはウキの大きさをワンラン  
ク小さくしてみよう。

## ここがポイント②

### アタリがあるのに 釣れないとき

理由としては、エサが大き過ぎる、エサが  
硬過ぎる、ハリスが短い、ウキが大き過ぎる  
などが考えられる。エサに関して言えば、大  
きすぎにしろ、硬すぎにしろ、タナまで届く  
エサが多い、いわゆるエサの持ちすぎによる  
もの。まずはエサの大きさを小さくして様子  
をみる。そのあとで、使っているエサに手水  
を打って軟らかくしてみよう。エサを軟らか  
くして持たなくなったら「ダンゴの底釣り夏」  
を加えて重くして対処すると良い。エサで改  
善されないときは、ハリスを伸ばしてみよう  
様子を見てみる。それでもダメなときはウキを  
ワンランク小さくしてみよう。

## ここがポイント③

### ウワズリ気味で ウキのナジミが悪くなった

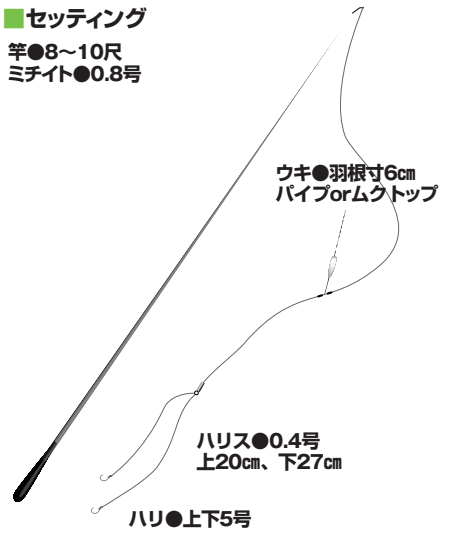
「ダンゴの底釣り夏」を加えてまとまりと重  
さを利用してウキをナジませるようにする。  
この場合、エサを作り直すなら下記のブレん  
ドにしよう。

「ガッテン」400cc+「パウダーベイトヘラ」  
200cc+「BBフラッシュ」200cc+「ダンゴ  
の底釣り夏」100cc+水250cc



### ■セッティング

竿●8~10R  
ミチイト●0.8号



浅ダナでの釣りはできる限り短いハリスで釣ることが確実なアタリを出していく秘訣。ひいてはヒット率を上げてスレを少なくする。そのためには魚の寄りや食いの状態に合わせたウキの選択（大きさや形状）が不可欠。大きさを合わせ、形状があったとき、釣りが簡単になる。それにはナジんで、サワって、ツンという基本的なアタリがでるのか、でないのかを見極めていくことが必要。ナジませて釣っていくときはパイプトップ、落ち込み重視のときはムクトップがよい。アタリができてきてカラツンなどになったときは、ハリスの長さ、ハリ大きさ、ウキの大きさとトップの選択で打開する。

●オモリ 実寸大

0.25mm厚板オモリ13mm×17mm



# ●「ペレ軽」を使ったブレンドパターン

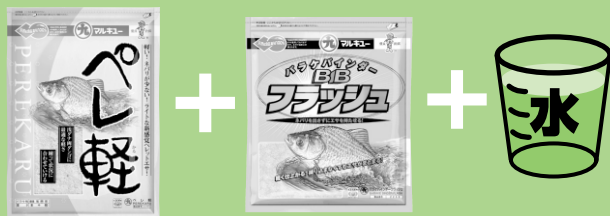
①オススの基本単品仕様

**ペレ軽500cc+水100cc**



②エサ持ち強調!まとまり良くした使いやすいブレンド

**ペレ軽600cc+BBフラッシュ  
200cc+水200cc**



③ペレット強調!高活性向きの重いブレンド

**ペレ軽600cc+ペレ道100cc+  
粒戦細粒50cc+水200cc**



## ここがポイント①

### 「ペレ軽」ブレンドの エサ使いのコツ

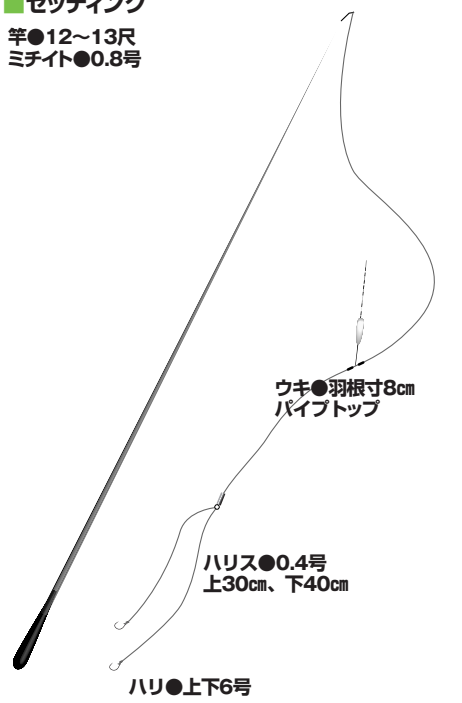
まずは、単品仕様で打っていきこう。次第にサワリができるが、なかなか食いアタリに繋がらないときは、エサの大きさがあってないか、エサが開きすぎていると考えられるので、まずはエサを小さく付けてみる。それでも解消されなければ、使っているエサをひと握り取り分けて練り込んでみよう。逆にカラツンが目立つ場合は、エサの持ち過ぎか硬さがないので、これも使っているエサをひと握り取り分けて手水で軟らかくする。

エサの持ちが悪いと感じたときは、手水を打って押し練りするが、それで好転しなければ、②の「BBフラッシュ」をブレンドしたものを試してみよう。

ウワズリ気味でウキのナジミが悪くなったときは、③の「ペレ道」と「粒戦細粒」をブレンドしたペレットを強調したものを作り替えてみよう。

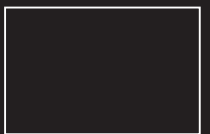
#### ■セッティング

竿●12~13尺  
ミチイト●0.8号



#### ●オモリ 寸表大

0.25mm厚板オモリ17mm×26mm



以前のように長サオで沖めをねらうメリットは少なくなったが、それでもペレット系のエサを使うときは少し長めのサオを出して数と型の両方を揃えていきたい。また、サオが長くなり通常の両ダンゴに比べるとエサが重いので、倍近くオモリを背負うウキで、トップも太めがよい。ただ、ハリスの倒れこみをねらうときはムクトップを使う。また、ハリスもやや長めとなる。

#### ●作り方

いずれのパターンも麩材を全てボウルに入れて混ぜ合わせてから水を注いでかき混ぜる一緒練り。水を加えて混ぜるときは、指を熊手状にして30回くらいかきまぜる。3分くらい放置してから使い始める。

#### ●使い方のコツ

できあがりをそのまま使っていき、手直しするときは、ひと握りにとって練ったり、軟らかくしたりする。手直ししたエサを打ってみて良くないときは、基エサを同量加えて合体させる。

#### ●特徴

「ペレ軽」そのものが、重さ、エサ持ち、バラケ性が調整されているエサなので単品でも充分に釣れる。いわゆるライトペレ宙の設定だが、通常の両ダンゴの感覚で使って問題ない。状況によって、より強調させたいエサをブレンドしていけばよい。

# 両ダンゴのチョーチン釣り (長ハリス)

- 現代の釣りにマッチしたベストブレンド  
グルバラ200cc+天々200cc+  
ガッテン400cc+水200cc+  
バラケマツハ200cc



## ●作り方

「グルバラ」、「天々」、「ガッテン」をボウルに入れ、粉のうちに混ぜておく。そこへ水を入れ、指を熊手状にして20回程度かき混ぜる。そこに「バラケマツハ」を入れて絡めるように全体をかき混ぜる。

## ●特徴

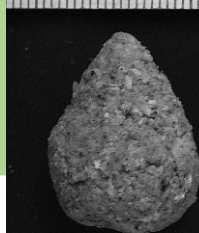
エサ持ちのいい「天々」、「ガッテン」が配合されているのでまとまりがある。さらに、「グルバラ」を配合することで適度な重さがでるのでタナまでナジませることができる。「バラケマツハ」を最後に混ぜることによりボソっ気を持たせ、バランスの良いブレンドになっている。

## ●使い方のコツ

使う分だけを小分けして使う。まとまりのいいエサなので、ハリ付けの際の付け方でエサの持ち具合をコントロールする。エサがナジむ途中にへら鮒がサワリすぎる場合は押し練りでバラケ性を調整するとよい。重さを持たせるには、「グルバラ」の配合を増やす、ボソっ気を出して、硬さで持たせるには「バラケマツハ」の配合を増やすとよい。

## ●エサの大きさ

実寸大

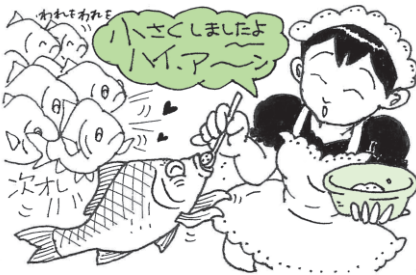




## ここがポイント①

### アタリがあるのに釣れないとき

カラツンの場合エサの持ちすぎが考えられます。「バラケマツハ」を小分けしたものにふりかけて軽く混ぜてバラケ性を強くすると同時に、エサ付けの際の圧を弱くするなどの調整をしてみましょう。さらに、へら鮒がエサの芯を吸いこめていない場合があります。エサをひとまわり小さく丁寧に付けて様子を見ましょう。また、ハリスが長いとも考えられますのでハリスを5cmずつ短くしてみるとよいでしょう。



## ここがポイント②

### サワリがあるのに食いアタリがでないとき

まず、エサが持っていない場合があります。エサ付けのさいに、しっかりセンターに入れる、丁寧に丸めるなど、エサを持たせるエサ付けを試してみてください。また、小分けしたエサに「BBフラッシュ」をふりかけて差し込むと、エサ持ちがよくなります。もうひとつ、ナジむ途中でエサがバラけ過ぎている場合があります。小分けしたエサに練りを加えてみるとよいでしょう。その逆に、バラケ性が少なくてアタリが出ないこともあります。この場合は、ウキがナジミになってしまう状態ですので、小分けしたエサに「バラケマツハ」を少し加えて様子を見ましょう。



## ここがポイント③

### ウワズリ気味でウキのナジミが悪いとき

ナジむ途中でエサに強く反応していると考えられるので、ダンゴに練りを加えて余計なバラケを抑えるようにしてみよう。エサ付けする際も丁寧にダンゴを付けて、大きさの調整も行ってみよう。それでもウキが入らないようであれば、ハリスを上下共5cmずつ短くしてみるとよいでしょう。

#### ■セッティング

竿●8~18R  
ミチイト●1~1.2号

ウキ●羽根寸9~14cm  
ムクトップ

ハリス●0.5~0.6号  
上40~60cm  
下50~75cm

ハリ●上下4~8号

#### ●オモリ 実寸大



「絡み止めスイッチシンカー」0.2g~1.6g+  
0.25mm厚板オモリ17mm×20mm

盛期の釣りにありへら鮒の活性もいいので、トラブルをさけるために、ミチイトは1号以上を使用する。とくに、ウキまわりは絡みが生じるので釣りの最中もチェックしよう。ハリスはその日のへら鮒の活性に応じて、長さを決める。ハリスは大きめのものがエサを持たせやすい。しかし、逆に4号になど小さくすると、へら鮒の吸い込みが良くなるので、その日によって色々試したい。

# 両ダンゴのチョーチン釣り

(短バリス)

- 高活性時に効く短竿の短バリス仕様  
ダンゴの底釣り夏200cc+ガッテン  
200cc+BBフラッシュ200cc+  
水250cc+バラケマツハ100cc



## ●作り方

「ダンゴの底釣り夏」と「ガッテン」と「BBフラッシュ」をボウルに入れ、そこに水を注ぎ、練り込むように30回程度かき混ぜる。いくらか意識的にネバリを出すようにし、最後に「バラケマツハ」を全体に絡めるように仕上げる。

## ●特徴

ネバリがあり、餅のような柔らかな仕上がり。「ダンゴの底釣り夏」が多く入っているので重さがあるエサとなる。

## ●使い方のコツ

重さがあり柔らかいダンゴをタナまで一気に持っていくイメージ。ダンゴが柔らかいので、10尺程度までの短竿に向いている。ダンゴの大きさは親指頭大ほどで、表面をきれいに整形し、できるだけ途中のバラケを防ぐようにする。柔らかさとエサ持ちのバランスは練りで調整。バラケ性を補うには、「バラケマツハ」を使う分だけ小分けしたものに振りかける。

## ●エサの大きさ



## ここがポイント①

### サワリがあるのに 食いアタリがでないとき

まずは、エサが持っている場合があります。ウキのバランスを確認し、ダンゴエサによるナジミがきちんとでているか確認しましょう。

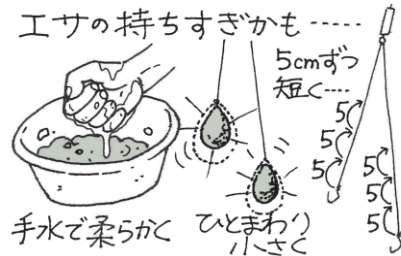
次にエサは持っているのにアタリがでない場合で、ウキがナジミきった状態であれば、穂先を少し上げて“縦誘い”を入れてみます。ダンゴが柔らかいので、誘いはソフトに入れるようにしましょう。

また、へら鮒がダンゴに興味を示してない場合には、ダンゴは小分けし手水と練りを加えて、柔らかくしてみるとよいでしょう。それでアタリが出なければ、「バラケマッハ」を少々加えてみます。それでも、食いアタリがでなければ、ハリスを上下共5cmずつ伸ばしてみます。また、上ハリスが短いままで、下ハリスを伸ばしてダンゴにアピール度を加える釣り方もあるので、試してみてください。

## ここがポイント②

### アタリがあるのに 釣れないとき

エサが持ちすぎている場合があります。手水で柔らかくして、ハリ付け時の圧の調整をしてみましょう。また、へら鮒がダンゴエサをしっかり吸いこんでない場合があります。ダンゴエサをひとまわり小さく丁寧に付けて様子をみましょう。また、ハリスが長いとも考えられますのでハリスを5cmずつ短くして探っていくとよいでしょう。



## ここがポイント③

### ウワズリ気味で ウキのナジミが悪くなった

ダンゴエサに反応していると考えられるので、盛期ではいい状態です。「ダンゴの底釣り夏」を少し加えて重さを付けてみるか、エサに練りを加えて余計なバラケをなくすようにしてみよう。ハリ付けする際も丁寧に付けて、同時に大きさの調整も行なってみます。それでもウキが入らないようであれば、ハリスを上下とも5cmずつ短くしてみるとよいでしょう。

### ■セッティング

竿●8~10R  
ミチイト●1~1.2号

ウキ●羽根寸6~10cm  
ムクトップ

ハリス●0.5~0.6号  
上10~25cm  
下20~35cm

ハリ●上下4~7号

エサが柔らかいこともあり、できるだけ短竿を使用する。ハリスが短い分、ウキはオモリ負荷の少ないものを使用する。ウキを小さくすることにより、ダンゴに自然なナジミがでる。ハリスは短いほど、タナに入りやすくなるが、その日のへら鮒の活性に応じて長さを調整するとよい。また、ハリりの大きさも、吸い込みのよいサイズを選びたい。

### ●オモリ 実寸大

「絡み止めスイッチシンカー」0.2g~  
0.8g+0.25mm厚板オモリ15mm×17mm

# 両ダンゴのチョーチン釣り (ペレット系)

## ●単品で釣れるペレット系ダンゴエサ ペレ軽500cc+水100cc



+



### ●エサの大きさ



### ●作り方

ボウルに入れた「ペレ軽」に水を注ぎ、指を熊手状にして20回程度かき混ぜ、全体に水がいきわたるようにする。

### ●使い方のコツ

ヤワネバタッチのエサなので、ハリ付けの際に調整がしやすい。大きさ、手水や少し手もみをしたりして、ウキにナジミがでるように調整する。重さを加えたいときは、「粒戦細粒」を足すといい。エサは少量を何回も作り変えることで絶えずフレッシュな状態をキープさせ、へら鮒に食い気を起こさせる。



### ●特徴

ヤワネバタッチのエサ。まとまりもあり、単品で使いやすい。集魚に効果のあるペレットが配合されているながらも、現代の釣りにマッチさせた配合になっているので、ペレットの量、重さが最適な通常の両ダンゴ感覚で使えるエサである。

## ここがポイント①

### サワリがあるのに 食いアタリがでないとき

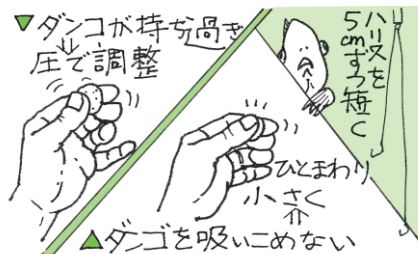
エサが持っている場合があります。エサ付けの際に丁寧にエサを付けるようにしましょう。また、エサがバラけ過ぎている場合があります。小分けした「ベレ軽」に練りを加えてみるとよいでしょう。その逆に、バラケ性が少ない場合もあります。この場合は、ハリ付けの際に付け方を工夫してみよう。圧の調整を弱くしたり、角張らせてエサ付けをすると、バラケ性が増します。



## ここがポイント②

### アタリがあるのに 釣れないとき

カラツンが多い場合は、ダンゴエサの持ちすぎが考えられます。ハリ付けの際の圧で調整してみましょう。もうひとつはへら鮒がダンゴエサを吸いこんでない場合があります。ダンゴエサをひとまわり小さく丁寧に付けて様子を見ましょう。また、ハリスが長いとも考えられますのでハリスを5cmずつ短くしてみるとよいでしょう。



## ここがポイント③

### エサを打っていくうちに ウキのナジミが悪くなった

エサ打ちを続けるに従い、寄るへら鮒の量が増えることで、次第にウキのナジミは悪くなります。少しずつエサに押し練りを加えて、しっかりナジミ幅をキープするようにします。ただし、こうすることでウキの動きがおとなしくなるようではNG。開きを意識したエサ付けにしつつ、タナまで持つようにします。この繰り返しでウキの動きとナジミ幅をコントロールしてください。

### オモリ 実寸大



S

+

「絡み止めスイッチシンカー」0.2g~1.2g+  
0.25mm厚板オモリ17mm×20mm

### ■セッティング

竿●8~10R  
ミチイト●1~1.2号

ウキ●羽根寸9~12cm  
ムクトップorパイブトップ

ハリス●0.5~0.6号  
上40~60cm  
下50~75cm

ハリ●上下5~8号

基本的には長ゼオのチョーチン釣りと同じ。仕掛けはトラブルのないように、太めのミチイトを使用する。落ち込みの早いアタリをねらう場合はムクトップのウキを使用。ナジませて、アタリが続くようであれば、ダンゴの重さを支えられるパイブトップのウキを使用する。



# 野釣り向き両ダンゴのチョーチン釣り (高活性時)

## ●活性が高いときに最適!

天々400cc＋プログラム400cc＋  
水200cc＋バラケマツハ200cc



### ●作り方

「天々」と「プログラム」をボウルに入れ、そこに水を注ぎ指を熊手状にして30回ほどかき回す。そこへ「バラケマツハ」を入れ全体をほぐすように混ぜる。5分ほど放置してできあがり。

### ●特徴

「天々」のまとまりのよさと「プログラム」の集魚効果、「バラケマツハ」のボソ感がバランスよくブレンドしてあり、しっかりタナまで持ってバラける。仕上がりのタッチはネバボソ。

### ●使い方のコツ

エサを半分くらいに分け、分けたものを手の甲でエア抜きして軽く丸めて使う。これで持ちが悪ければ押し練りを加える。粘りが出てきた場合には、エアの含んだ基エサと合体させる。

### ●エサの大きさ



## ここがポイント<sup>①</sup>

### サワリがあるのに 食いアタリがでないとき

エサがバラケ過ぎている可能性があるので、エサをひとまわり小さくして丁寧に付けて様子を見ましょう。それでもダメな場合は、使っているエサを4~5回押し練りしてバラケ性を押さえてみます。



## ここがポイント<sup>②</sup>

### アタリがあるのに 釣れないとき

まずは、エサの大きさがタナで食い頃になっていない(エサの持ちすぎ)と考え、大きさをひとまわり小さくする。次に使っているエサに手水を打ち柔らかくする。ただし、エサを柔らかくするとナジミが浅くなるので、より丁寧に付けるか大きく付けて、カラツンがでていたときと同じナジミ幅をキープすることがポイントです。



## ここがポイント<sup>③</sup>

### エサを打っていくと ウキのナジミが悪くなった

魚の量が増えてナジミが悪くなった場合は、押し練りをしてエサを持たせるようにします。ウズリ気味でウキのナジミが悪くなった場合は、魚を下げる効果を狙って、使っているエサに手水を打ってから「ダンゴの底釣り夏」をパラパラと振りかけて押し練りしましょう。「ダンゴの底釣り夏」の量は、打ち始めのナジミ幅が出るまで調整していきます。



#### ■セッティング

竿●13~21尺  
ミチイト●0.8~1号

ウキ●羽根寸9~15cm  
パイプトップ

ハリス●0.5~0.6号  
上40~60cm  
下50~70cm

ハリ●上下6~8号

活性が高いときはエサへのアタックが多いので、エサをあまりいじらずに仕掛けで対応したほうが釣りが簡単になるので、エサが持たなければ、ウキを大きくしたり、ハリスを短くしたり、ハリを大きくしたりして対応したい。ハリス段差は10cmを基準とする。

#### ●オモリ 実寸大

18尺時

「絡み止めスイッチシンカー」1.6g+

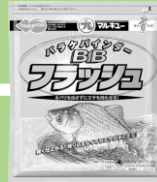
0.25mm厚板オモリ17mm×20mm



# 野釣り向き両ダンゴのチョーチン釣り (低活性時)

## ●低活性のときに有効なブレンド

ガッテン400cc＋パウダーベイト  
ヘラ400cc＋水200cc＋BBフラッ  
シュ100cc＋バラケマッハ100cc



### ●作り方

「ガッテン」と「パウダーベイトヘラ」をボウルに入れ、そこに水を注ぎ20～30回練って芯を作る。そこへ「BBフラッシュ」と「バラケマッハ」を押し込むように混ぜる。多少まばらになってもOK。

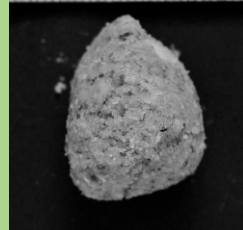
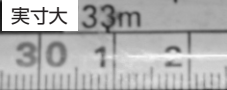
### ●特徴

全体的に軽い素材と粘りやすい素材を使い、軽くてバラケ性が少ない仕上がり。活性の低いへら鮎がエサを追いやすくするために軽く、芯に近づけるためにバラケ性を抑えている。仕上がりのタッチはネバチヨイボソ。

### ●使い方のコツ

エサを半分くらいに分け、分けたものを手の甲でエアー抜きして軽く丸めて使う。持ちが悪ければ押し練りの回数を増やしていく。

### ●エサの大きさ

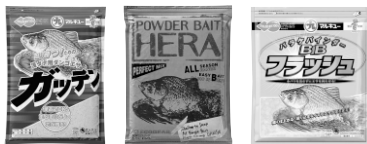


## ここがポイント①

### サワリがあるのに 食いアタリがでないとき

使っているエサに手水を打ち、「BBフラッシュ」をひと握り入れて様子を見ます。これで食いアタリが出るならエサのバラケ過ぎと判断できるので、「バラケマッハ」を抜いて「BBフラッシュ」を200ccにしたブレンドに切り替えましょう。

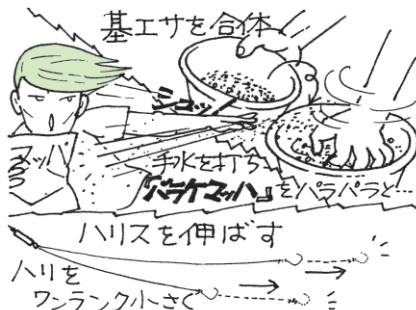
「ガッテン」400cc+「パウダーベイトヘラ」  
400cc+水200cc+「BBフラッシュ」200cc



## ここがポイント②

### アタリがあるのに 釣れないとき

ネバ系のエサのため持ちすぎになりやすいので、使っているエサに基エサを合体させます。さらにエサに手水を打ち「バラケマッハ」をバラバラと差し込み、バラケ性を増やしてみよう。また、セティングで対応するならハリスを伸ばしてみるか、ハリをワンランク小さくしてみましょう。



## ここがポイント③

### ウキの動きが悪く もう少しサワリがほしいとき

よりエサを軽くしてサワリを強く出させるためにブレンドを次のものに変えてみよう。

「ガッテン」400cc+「浅ダナー本」400  
cc+水200cc+「BBフラッシュ」100cc+  
「バラケマッハ」100cc



### ■セティング

竿●13~21尺  
ミチイト●0.8~1号

ウキ●羽根寸8~14cm  
パイプトップ

ハリス●0.5~0.6号  
上50~60cm  
下65~75cm

ハリ●上下5~7号

ウキとハリスは活性の高いときと比べてワンランク小さくする。ハリスの長さも10cmほど長くし、段差も拡げる（段差15cm）。ハリスが長くなるので、「絡み止めスイッチシンカー」を使うことをおすすめする。

### ●オモリ 実寸大

18尺時

「絡み止めスイッチシンカー」1.6g+

0.25mm厚板オモリ17mm×17mm



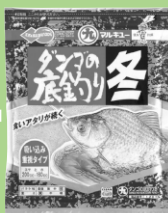
# 両ダンゴの底釣り

●へら鮒を集魚しながら釣るのに有効

真底100cc＋  
ダンゴの底釣り冬100cc＋  
水180cc＋バラケマッハ100cc



+



+



+



## ●作り方

「真底」と「ダンゴの底釣りの冬」をボウルに入れて粉のうちよくかき混ぜる。そこへ水を注いだら手早く数回かき混ぜて水分を浸透させる。そこに「バラケマッハ」を加えほぐすように全体をかき混ぜてポソツとしたタッチに仕上げる。

## ●特徴

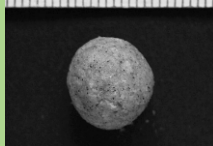
「真底」の強い集魚力でへら鮒を広範囲に寄せるパワーに「バラケマッハ」のバラケ性をプラスし、芯残りの良い「ダンゴの底釣り冬」でまとめたエサ。経時変化が少なく硬めのボソから手水で調整したベトまで、釣況に応じて使用範囲の広いエサに仕上がる。

## ●使い方のコツ

できあがった基エサのポソツとしたタッチを維持するためにエサは小分けし、指で軽く丸めて付ける。ナジミ幅はエサを丸める指圧で調整し、ナジミ幅を大きくしたいときは手の甲で押してアアーを抜いて使う。基エサでカラツンになる場合は濡れた手でエサを押さえる感じで軟らかくし、やや大きめにハリ付けすると良い。

## ●エサの大きさ

実寸大 1 2





## ここがポイント③

### ウズリ気味でウキのナジミが悪くなった

まずつまんだエサを指先で丸める回数を多くして丁寧にハリ付けしてナジミ幅をしっかり出します。へら鮎が寄っているのでウキはフワフワと動きませんが、手を出さずエサ落ち付近のアタリを狙ってください。これをしばらく続けるとへら鮎も落ち着くはずですが、効果がなければハリスを上下とも5cm短くします。さらにウキをワンランク大きなものと交換してエサの落下を早めるのもひとつの手ですので試してみてください。



## ここがポイント①

### ウキの動きが悪い、サワリが出ないとき

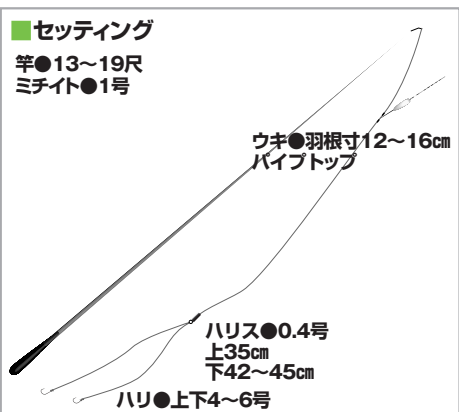
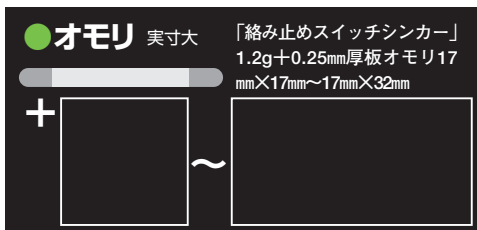
へら鮎が寄っていないか仕掛けやウキのセッティングが合っていないと考えていいでしょう。まず、ウキのエサ落ち目盛の確認をします。次にタナの再チェックを行います。ウキが一番動きがやすいのが上バリトントンなので、このタナに調節します。それぞれチェックが完了したあと、それでもウキの動きが悪いようならエサをやや角張らせて大きめにエサ付け。トップがナジんだらエサ切りしテンポ良く打ち返すといいでしょう。

## ここがポイント②

### アタリがあるのに釣れないとき

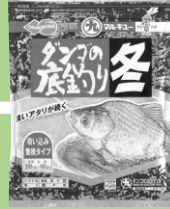
アタリがでる位置に注目してください。トップがナジんで戻らない状態のアタリはスレアタリと考えていいでしょう。このアタリでカラブリを続けているとウズリの原因になるので見送ります。トップが戻る途中でのアタリを空振るときはエサのずらし幅を1cmずつマメに調節します。このときエサをひと回り小さくして様子を見ます。それでもカラツンならば使っているエサに手水を打ち、軟らかくしたものを打ってみてください。

へら鮎がウズリやすい時季なのでウキはアタリがでる範囲の大きなものが有利で、ナジんで戻てからの基本通りのアタリを狙うにはパイプトップが最適。活性が高いので仕掛けはミチイト1号、ハリス0.4号が基準。ハリスは短いものが釣りやすく、急なカケアガリや底の起伏が激しいところでは段差を10cmくらいまで広げると明確なアタリがやすくなる。ハリは釣れる型に応じ、良型中心ならば軸がしっかりしたものが安心だ。



# グルテンセットの底釣り

- 底に集魚し、アタリを維持するバラケ  
粒戦50cc+水200cc+ダンゴの底釣り夏100cc+ダンゴの底釣り冬  
100cc+ペレ道100cc



## ●作り方

「粒戦」に水を加えて5分ほど放置して水分を浸透させる。そこに「ダンゴの底釣り夏」、「ダンゴの底釣り冬」、「ペレ道」を入れて全体を15回ほどかき混ぜてダマがないよう均一に仕上げる。

## ●特徴

まとまりが良く重さがあるので、ウズリを抑えるので明確なアタリが出る。さらにエサ打ちを続けることにより「粒戦」が底にたまり、へら鮎を足止めするのでアタリが続く効果が期待できる。野釣り、管理釣り場を問わず、浅場の底釣りから深場までをカバーする。

## ●使い方のコツ

握りこぶしの半分程度に小分けして使用。打ち始めは基エサをつまみ、形を整えてパチンコ玉大にエサ付け。サワリが出てトップの戻りが早ければ指先で丸める回数を多くして調節。その後、手水を付けてダンゴタッチに調整。へら鮎の動きがいい時期なのでボソツとしたものでははしゃぎやすいので、バラケを食ってもいいようなタッチで攻めるのがコツだ。

## ●エサの大きさ



## ここがポイント①

### ウキの動きが悪い、サワリが出ないとき

水位が変わる釣り場もあるのでエサ落ちとタナの再チェックをおこないます。寄せを意識したバラケにすると寄ったへら鮒がウワズるので、つまんだエサを軽く形を整えるか、やや角張らせてハリ付けします。このとき、やや沖にエサ打ちしてエサをアピールすることも大切。また、両バリにバラケを丸めてエサ付けし、サワリがでたところで下をグルテンに替えるといいでしょう。

#### ■セッティング

竿●16~24尺  
ミチイト●1号

ウキ●羽根寸12~16cm  
パイプトップ

ハリス●0.4号  
上35cm  
下42~45cm

ハリ●上下4~6号

重たいバラケをしっかり支え、戻りを良くするにはパイプトップがオススメ。状況によりバラケの大きさとタッチが変わるので、これに応じて上バリを使い分けます。下バリはくわせ専用なので4号で充分。活性が高いときは重めのハリでエサを底に安定させるとはっきりしたアタリがでやすくなります。

#### ●オモリ 実寸大

「絡み止めスイッチシンカー」  
1.2g+0.25mm厚板オモリ17  
mm×17mm~17mm×32mm

+



~



## ここがポイント②

### アタリがあるのに釣れないとき

この場合もポイント①と同じにウキのバランスとタナをチェックしよう。一時的に両グルテンではしゃぐへら鮒を釣りこみ、セット釣りへ戻すのも一手。早いアタリはスレアタリが多いので、これを送りトップが戻る途中のものを狙っていこう。それでもカラツンが多ければタナを1~2cmずつ深くして様子を見ます。バラケはていねいに丸めてトップをしっかりとナジませ、へら鮒を落ち着かせることが大事。バラケとグルテンに手水を打って軟らかくするもの効果があります。

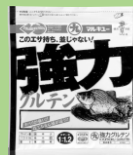
## ここがポイント③

### ウワズリ気味でウキのナジミが悪くなった

つまんだバラケを指先で転がす回数を多くしてエサ持ちを良くし、釣れていたときと同じナジミ幅をしっかりと出します。へら鮒はウワズっているので底に誘導するため、早いアタリには手を出さないことです。これを10投ほど繰り返して様子を見ます。ここではへら鮒を落ち着かせるのが目的ですから、釣れなくてもいいくらいの気持ちが必要です。さらにハリを重たいものと交換するか号数をワンランク大きくしてエサ持ちをよくするものいいでしょう。

## ●くわせエサ

### 強力グルテン50cc+水60cc



「強力グルテン」に水を入れ指先で20回ほどかき混ぜる。そのまま3分ほど放置して固まったら裏返して使用。グルテン量が多くハリ持ちがいいので流れがある釣り場から超深場の釣りまで安心して使える。

# ヒゲトロセットのチョーチン釣り

## ●タナまでしっかり持つバラケブレンド ダンゴの底釣り夏50cc＋ 特S200cc＋GTS200cc＋ 水100cc



### ●作り方

「ダンゴの底釣り夏」と「特S」と「GTS」をボウルに入れて粉のうちにいったん混ぜ合わせる。そこに水を注ぎ、指を熊手状にして全体に水がいきわたるようにかき混ぜる。

### ●特徴

「ダンゴの底釣り夏」と「特S」が入っているのも重さとまとまりがあり、チョーチンのタナまでエサを運びやすい。あまり練りを入れずに、エサの大きさにナジミ幅のコントロールがしやすくなっている。仕上がりはヤワネタッチ。

### ●使い方のコツ

寄せを考えて、エサ付けは大きめがよい。小分けしたエサを手水で調整しながら、柔らかい大きめのエサを使用する。アタリが少ないときは「スーパーダンゴ」を加えて様子を見る。アタリが多すぎるときは、エサに練りを加えてバラケを調整するが、「特S」を少し加えてみると、バラケ性を制御できる。

### ●エサの大きさ



## ■セッティング

竿●8～10尺  
ミチイト●1～1.2号

ウキ●羽根寸6～10cm  
ムクトップ

ハリス●上0.6～0.5号8～10cm  
下0.5号15～25cm

ハリ●上5～6号、下4～5号

ヒゲトロセット釣りは、操作性と「ヒゲトロ」のエサ持ちを考えるとできるだけ短い竿を使用したい。ウキの大きさは、ウキのナジミがしっかりできるサイズを選択したい。また、この釣りはハリスの長さが重要で、アタリを見ながら上下ともにシビアにその日に合う長さを見つける。それこそ1cm単位での微調整で探っていききたい。トロ口を掛ける下バリの大きさにも注意をし、トロ口の持ちが悪ければハリを大きくする。

## ここがポイント①

### サワリがあるのに 食いアタリがでないとき

バラケが持っていないことが考えられます。使っている小分けしたバラケに少し練りを加えて、バラケ性を調整してみましょう。チョーチン釣りの場合はタナを作ることが大切です。エサを小さく丁寧にハリ付けしてみるのもいいでしょう。しかし、へら鮎の寄りを考えて小さなエサでバラケ性を調整する場合は、時折、寄せを考えて大きめのエサを打つことも大切です。

## ここがポイント③

### ウワズリ気味でウキのナジミが悪くなった

へら鮎がダンゴに興味を示しているのので、ハリ付けの際にバラケを丁寧にしっかりと付けてみるとういでしょう。それでもなお、ウキが入りにくい場合は、小分けしたバラケに「ダンゴの底釣り夏」をパラパラとふりかけるようにして、重さを付けてタナに入るようにしてみるといいでしょう。

## くわせエサ ヒゲトロ

「ヒゲトロ」1分包を半分にし、ある程度ほくして、小皿等の容器に入れ、少しずつ水を加えて、全体に水が浸るようにする。ハリ付けするときに長ければ、ハリに巻き付けるとタナまで持ちやすい。



## オモリ 実寸大



+



～



「絡み止めスイッチシンカー」0.5g+  
0.25mm厚板オモリ8mm×17mm～10mm×17mm

## ここがポイント②

### アタリがあるのに 釣れないとき

くわせのトロ口がハリ残りしているか確認しよう。トロ口エサはへら鮎の煽りで思った以上に抜けやすいエサで、加えて、時間の経過と共に繊維が弱くなるので、こまめに作り替えることをおすすめします。また、下バリを大きくしてみるのも、トロ口が抜けにくくなるので試す価値があります。

さらに、バラケにばかり興味を示しているようであれば、ハリスの長さの調整してみよう。下ハリスを短くしてバラケに近づけるとよいだろう。



# ヒゲトロセットの浅ダナ釣り

## ●軽めのバラケブレンド

ガッテン400cc＋特S200cc＋  
スーパーダンゴ200cc＋水200cc



### ●作り方

「ガッテン」と「特S」と「スーパーダンゴ」をボウルに入れて良く混ぜ合わせてから水を注いで全体に大きくかき混ぜる。指先にネバリを感じるまで混ぜ合わせてから4～5分放置し、完全に水分を吸収させる。

### ●特徴

「ガッテン」はこのエサのベースになるものでエサ持ちを良くする。「特S」はネバリと重さでエサをタナまで型崩れすることなく届ける。「スーパーダンゴ」は反対にエサのバラケ性とタナでの膨らみを促進させる効果がある。

### ●使い方のコツ

この釣りはバラケエサ（ダンゴ）をタナである程度持たせ、ジワジワバラケさせながらバラケの煙幕の中にくわせの「ヒゲトロ」を同調させることが肝になる。そのため、バラケ過ぎは絶対に禁物でネバリのあるバラケエサ（ダンゴ）がベースになる。エサの硬さも柔らかか過ぎるものよりもしっかりとしたタッチが良く「エサ持ち重視」が基本になり。使い方としては、小分けにして軽く押し練りを加えてしっかり3～4目盛なじむように調整する。

## ●重めのバラケブレンド

プログラム400cc+パウダーベイト  
スーパーセット200cc+ダンゴの底  
釣り夏100cc+水200cc



### ●作り方

「プログラム」と「パウダーベイトスーパーセット」と「ダンゴの底釣り夏」をボウルに入れ、そこに水を注ぐ。全体に水がいきわたるようにまぜて軽く練り、4～5分放置する。このエサは「ダンゴの底釣り夏」がブレンドしてあるため、はじめから練り過ぎないように注意する。

### ●特徴

「プログラム」がこのエサのベースで、へら鮎の集魚とエサのまとまり感を演出。「パウダーベイトスーパーセット」はネバリがあり「ダンゴの底釣り夏」で重さを付ける。盛期の宙釣りは魚の煽りも強くなるのでエサをしっかりさせる必要があり、「パウダーベイトスーパーセット」のネバリや「ダンゴの底釣り夏」の重さとまとまりが効果をあげる。

### ●使い方のコツ

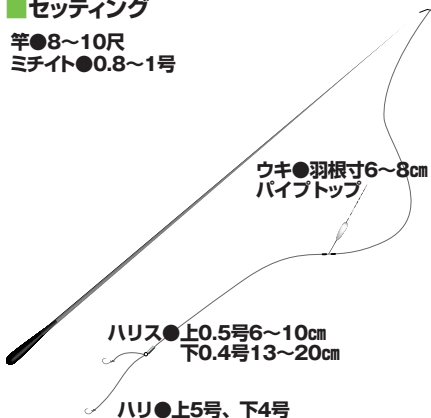
エサのまとまりが良い「プログラム」をベースにしてあることからエサ持ちは良い。さらに「ダンゴの底釣り夏」もブレンドされているためはじめにネバリを出し過ぎるとエサの膨らみが悪くなる。そのため小分けにしながら調整すると使いやすい。

### ●エサの大きさ



## ■セッティング

竿●8~10尺  
ミチイト●0.8~1号



サオは短めで操作性と手返しが早くできるようにする。ウキはナジミをキープさせるため浮力のあるタイプが適している。また、トップはバラケエサ（ダンゴ）を支えるためパイブトップが使いやすい。ラインは平均的なものなので良いが、上ハリスを0.5号と太くしてヨレを防ぎ、下ハリスは「フロロ系」で軽くくわせエサでもラインが張るようにすると良い。

## ●くわせエサ ヒゲトロ



「ヒゲトロ」1分包の半分を丁寧にほぐして水に浸し軽く絞り小さな容器に入れる。直射日光を避けるようにして使う。「ヒゲトロ」の開きを抑えたいときには「感嘆水」を作りそこに漬けるとネバリが開きが抑えられる。「感嘆水」は「感嘆」5~10ccに水100ccでシェイクすればできる。さらに重さをつけたいときには「わらび職人」を上からかけて浸す裏技がある。

## ●オモリ 実寸大



0.25mm厚板オモリ  
12mm×17mm  
~15mm×17mm

## ここがポイント①

### サワリがあるのに 食いアタリがでないとき

この場合、①「ヒゲトロ」がハリ抜けている②下ハリスが長い、が考えられます。特に盛期に一番多いのは①のケースで魚の煽りでくわせがハリ抜けていることが多く、そんなときには「ハリを大きくする」「ヒゲトロを作り直す」ことで強いアタリがでるようになります。

## ここがポイント②

### アタリがあるのに 釣れないとき

カラツンの原因はダンゴエサ（バラケ）に対してのものが多く、上エサの「ネバリ過ぎ」「大き過ぎ」が考えられます。そんなときには上エサの手直しが必要で、手水を打ってから開く素材を差し込むと良いでしょう。「バラケマッハ」「スーパーダンゴ」などを絡ませることで、バラケ性が促進され上エサに対するカラツンは少なくなります。膨らませてバラケさせるときは「GTS」が適しています。

また、下ハリスが長いことで「カラツン」というよりも「イトズレ」が出ることもあり、そんなときは下ハリスを短くしていきましょう。

## ここがポイント③

### ウワズリ気味でウキのナジミが悪くなった

魚が寄り過ぎるとウキのナジミが悪くなります。考えられることは①ウキの浮力が不足②上下のハリスが長い③タナが合っていない、があります。この場合のエサの手直しは、しっかりとしたナジミ幅を作り、タナに魚を寄せるようにします。そのため、①練ってエサにネバリを加える②「ダンゴの底釣り夏」を振りかける、などでへら鮎を落ち着かせることでタナが安定してナジミがでるようになります。

# うどんセットのチョーチン釣り

## ●ペレット系のバラケブレンド

粒戦100cc+パワー・X100cc+  
水200cc+ペレ軽200cc+  
プログラム200cc+軽麩200cc



+



+



+



+

### ●作り方

「粒戦」と「パワー・X」をボウルに入れ、そこに水を注いで混ぜ、ドロドロにして4～5分放置する。そこへ「ペレ軽」と「プログラム」と「軽麩」を入れて、指を熊手状にしてエアーを含ませるようにかき混ぜる。



+



### ●特徴

ペレットの集魚力を十分に活かしたブレンドで、ペレットに反応する池で効果的。バラケ性と重さがあり、「軽麩」のまとまりで魚をタナへ集められる。仕上がりのタッチはネバボン。

### ●使い方のコツ

作ったエサを2つに分けて使い始める。使っているエサがネバってきたと感じたら、基エサをひと握りずつ加えていく。この繰り返しで、エサのフレッシュ感を維持する。

# ●短バリス縦サソイのバラケブレンド 粒戦50cc+とろスイミー50cc+ パワー・X200cc+水200cc+ プログラム300cc+ セット専用バラケ200cc



## ●作り方

「粒戦」と「とろスイミー」と「パワー・X」をボウルに入れ、そこに水を注いで混ぜ、ドロドロにして4～5分放置する。そこへ「プログラム」と「セット専用バラケ」を入れて、指を熊手状にしてエアーを含ませるようにかき混ぜる。

## ●特徴

この釣りは、大きくバラけるブレンドが必要となるので「パワー・X」を軸とし、「プログラム」はまとまりがあるので大きなバラケでもエサ付けしやすく集魚もある。さらに「粒戦」と「セット専用バラケ」が縦にバラけるので、へら鮎をくわせエサに誘う。「とろスイミー」はつなぎの効果。仕上がりのタッチはシットリボソ。

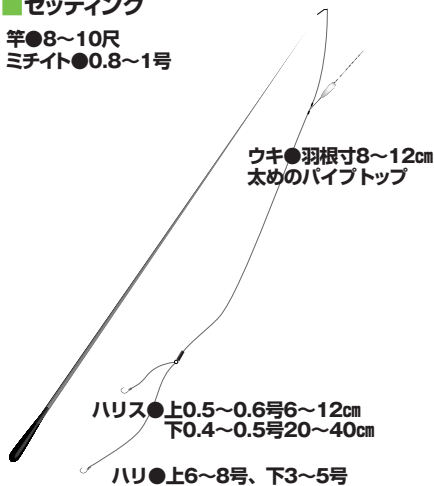
## ●使い方のコツ

タナに魚の量を常に保つために、大きめのバラケエサを打ち、縦誘いでバラケを促進させる。あまり基エサをいじらずにエサの大きさと圧加減でナジミ幅をコントロールする。



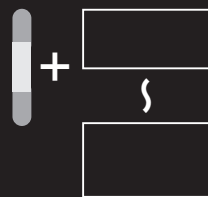
## ■セッティング

竿●8~10尺  
ミチイト●0.8~1号



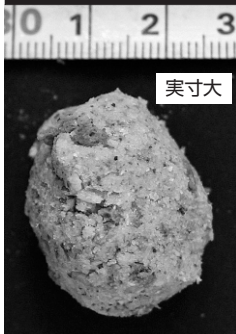
大きなバラケを背負わせるためにウキは太めのパイプトップで、ストロークがあるほうが釣りやすい。また、大きなバラケをタナへ持たすために上ハリは大きめのハリを使う。

## ●オモリ 実寸大



「絡み止めスイッチシンカー」  
0.5g+0.25mm厚板オモリ8mm×17mm~10mm×17mm

## ●エサの大きさ



ウキを一旦沈没させ、トップの付け根ぐらまで出るような縦誘いを2~3回して、トップ先端の1目盛が出るようにバラケエサの大きさや圧加減を調整する。

## ●くわせエサ

# 魚信2分包+水150~170cc

くわせのウドンは太めで大きく(5~7mm)使うので、「魚信」は2分包量作っておくと安心だ。



## ここがポイント①

### サワリがあるのに 食いアタリがでないとき

下ハリスが張ってないと判断し、くわせのウドンを大きく付けてみよう。もしくは、下ハリをワンランク大きくするか、重さのあるハリに交換します。

## ここがポイント②

### アタリがあるのに 釣れないとき

バラケにアタってくるようなときは、エサをラフに付けて早くバラけさせて、バラケにアタらせないようにします。くわせエサへのカラツンは、ハリスが張ってないと考えて下ハリスを5cm単位で短くし、さらにハリをワンランク大きくしてみましょう。

## ここがポイント③

### ウワズリ気味で ウキのナジミが悪くなった

ペレット系の場合は、使っているエサに「粒戦細粒」をひと握り加え、全体に混ぜます。少しまとまりよくして重さを加えてナジミを良くします。

短ハリス縦サソイの釣りの場合は、バラケエサを締めてナジミを入れるのではなく、別作りの「粒戦(100cc+水100cc)」をバラケエサにひと掴みずつ入れていき、魚を下げるイメージでナジミをしっかり入れていきます。



# ウドンセットの浅ダナ釣り

## ●活性が高い時期のバラケブレンド

粒戦100cc+水200cc+プログラム  
ム200cc+パワー・X200cc+  
セット専用バラケ200cc



### ●作り方

「粒戦」に水を注いで7～8分ほどそのまま放置しておく。水分を吸収させてから「プログラム」、「パワー・X」、「セット専用バラケ」を入れて、指を熊手状にして大きく混ぜ合わせる。できあがりはボソ気味で、この時点ではエサ全体にエアが含まれているように仕上げる。

### ●特徴

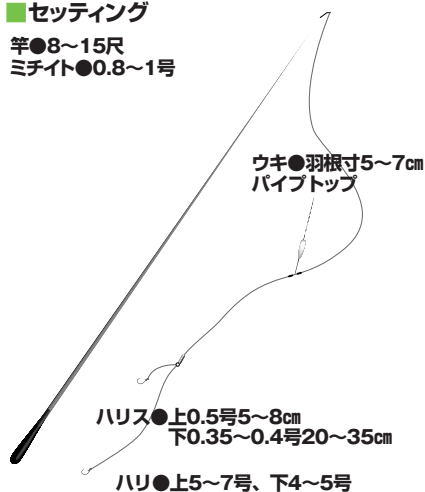
「プログラム」がエサ全体をまとめ、「パワー・X」は水中での開きを促進させる。「セット専用バラケ」はタナに入ってからバラケ性（特に縦方向）が強のでタナへの集魚を助長する。また、麩材の中から「粒戦」が急落することでアピール力も備えている。

### ●使い方のコツ

基エサはボソッ気がありこのタッチはそのままにしておく。半分程度を小分けにして手水を打ちながらややしっとり気味にして使用する。まとまりが弱いときには「BBフラッシュ」か「浅ダナー本」を振りかけて使用する。重さが必要なときは「粒戦細粒」か「ダンゴの底釣り夏」を振りかけるとしっかりとしたエサになる。状況に合わせて調整するが、大きめのエサで魚を寄せながら釣りたいときには前者のエサが良く、しっかりとタナにエサを入れながら釣るときには後者のエサが良い。

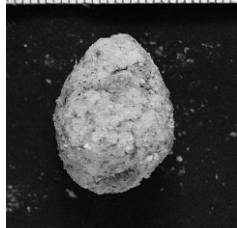
## ■セッティング

竿●8~15尺  
ミチイト●0.8~1号



サオは手返しの良さで8~10尺位がメインだが、近年では良型が沖めに付くことや、混雑時や日並みの悪いときなどはポイントによっては13~15尺位が必要になる。盛期は寄ったへら鮎の煽りでラインにヨレが出ることが多い。そのためミチイトはしっかりと張りのあるタイプが適している。号数も0.8~1.0号で良く、トラブルをより少なくしていく。また、スイベルの上部に「ウレタンパイプ」の0.4mmを3~4cm入れることでハリスの絡みが少なくなる。

## ●エサの大きさ



## ●オモリ 実寸大



0.25mm厚板オモリ  
3mm×14mm~  
12mm×17mm

## ●くわせエサ

### 魚信1分包+水75~90cc



くわせエサには色々な種類があるが、その使い分けは食い渋り気味のときには比較的軽量の「感嘆」「感嘆Ⅱ」「力玉」「力玉大粒」などが良く、魚の煽りが強くしっかりとしたもの良いときには「特選わらび彩」「魚信」「わらびどん」などのウドン系が良い。また、ウドンの場合は安定液でも重さを調整することができる。重さを変えたくないときには「特選わらび職人」を、重さをつけて黄色に仕上げたいときには「わらび職人」が良い。

## ここがポイント①

### サワリがあるのに 食いアタリがでないとき

一番注意するのはくわせエサがハリ抜けているかを確認すること。それでも食いアタリが出ないときはタナにへら鮎が溜まっていないと考え、上からのバラケエサの開きを抑えることが必要になります。エサ付けを丁寧にした、大きさを覚えてみて様子を見ていきたい。

## ここがポイント②

### アタリがあるのに 釣れないとき

この時期一番考えられるのが、バラケエサが持ち過ぎでのカラツンです。この場合は手水を打って少し柔らかくして「セット専用バラケ」や「スーパーダンゴ」などのバラケやすいエサを絡ませます。また、下ハリスが長過ぎることも考えられるので、下ハリスを3~5cmくらいずつ詰めていくのも手です。

## ここがポイント③

### ウワズリ気味でウキのナジミが悪くなった

バラケエサの開き過ぎが原因なので、バラケエサに手水を打って柔らかくし、エサに重さをつけたいときには「ダンゴの底釣り夏」を、重さはそのままネバリを出したいときには「浅ダナ一本」か「BBフラッシュ」などを絡めていきます。

# 両ダンゴのカッツケ釣り

(釣り場全般)

## ●真夏の数釣りに最適!

BBフラッシュ200cc＋  
バラケマツハ200cc＋水100cc



### ●作り方

「BBフラッシュ」と「バラケマツハ」をボウルに入れ、粉の段階でよく混ぜ合わせてから水を注ぎ30回ほどかき混ぜる。指先にネバリを感じたらそのまま放置し、完全に水分を吸収したら小分けして使用する。

### ●特徴

「BBフラッシュ」はエサのネバリと芯を作り、「バラケマツハ」はエサの開きと縦にバラけるように粒子を落として刺激する。魚の活性によっては「BBフラッシュ」と「バラケマツハ」の比率を3:1や1:3に変えても良い

### ●使い方のコツ

小分けにしたエサを魚の状態に合わせながら使用する。  
①ウキの動きが悪いときは「スーパーダンゴ」か「バラケマツハ」を振りかけてエサの膨らみや開きを良くする。②エサ持ちが悪いときは「浅ダナー一本」か「パウダーベイトスーパーセット」を絡めて練りを加えてネバリをだす。③カラツンが出るときには、手水を打って「白べら」か「GTS」などを絡めてエサの目詰まりを解消していく。

### ●エサの大きさ



# 「一発」セットのチョーチン釣り (野釣り)

- 夏の野釣りで威力を発揮するバラケ  
段差バラケ600cc＋プログラム  
400cc＋水200cc＋プログラム  
100cc



## ●作り方

「段差バラケ」600ccと「プログラム」400ccをボウルに入れて粉の段階で混ぜておき、水を注いでかき混ぜる。水を完全に吸って、エサが安定した所で、「プログラム」100ccを加え、20回くらいボウルにこすり付けるように練る。

## ●特徴

集魚力のあるエサをブレンドしており、絶えずタナにバラケの粒子がただようように軽く少しバラけるブレンドになっている。

## ●使い方のコツ

打ちはじめは大きめのエサ付けで、カラツンが頻繁に出るまで打ち続ける。アタリが出始めたら、カラツンが止まるまで、「プログラム」を50cc加えて20回練りこむ。

## ●くわせエサ

### 一発ミクロ

「一発」の大きさはミクロが良いが、「一発」小を4つに切って使ってもよい。水に浸して、使うときに練りこんで角を丸くしてから使うとよりアタリがやすくなる。



## ●エサの大きさ

実寸大



# 両グルテンの沖宙釣り (管理釣り場)

●秋の新べらねらいに最適!

グルテン四季50cc＋  
わたグル50cc＋水120cc



+

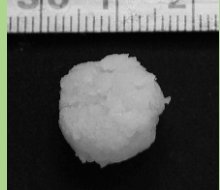


+



●エサの大きさ

実寸大



## ●作り方

「グルテン四季」と「わたグル」をボウルに入れて粉のうちに良くかき混ぜる。そこへ水を注いだら指先で混ぜて水分を全体にいきわたらせる。3分ほど放置して全体が固まったら底から掘り起こすようにしてエアーを絡めできあがり。乾燥を防ぐためにボウルの上に濡れタオルをかぶせておくと良い。

## ●特徴

軽くてハリ持ちがいい「わたグル」に、ボソツとしたタッチに仕上がりに水中で早く開いて食い気を誘う「グルテン四季」のブレンド。軽くて膨らみがいいエサなので落ち込みからアタリを狙う新べら釣りに最適。シトリタッチから硬めのボソまでへら鮎の食いに応じて調整範囲が広い。

## ●使い方のコツ

最近では大エサはアタリがでにくいいため、つまんだエサをパチンコ玉大にハリ付けする。グルテンの膨らみによってアタリの出方が変わってくるので丁寧に丸めるだけでなく、軽く形を整えたものをハリの子モトだけクッと押さえる付け方も効果がある。アタリがはっきりしないときは水量を100ccにして、硬いグルテンを小さめにハリ付けするといい。



# バラグルセットのチョーチン釣り (野釣り)

●秋の放流シーズン向けのバラケ  
グルバラ200cc+水200cc+  
段差バラケ200cc+プログラム  
200cc+バラケマッハ200cc



## ●作り方

「グルバラ」を入れたボウルに水を注いでかき混ぜ。ドロドロの状態ですら4~5分放置する。そこへ残りの麩を入れて、指を熊手状にしてエアを含ませてダマができないようにかき混ぜる。

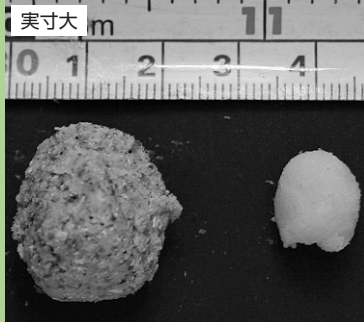
## ●使い方のコツ

エサが持たない場合は、押し練りではなく指を熊手状にして形をかき回して麩のネバリを利用して持たす。回数は10回を目安にしてナジミがでるまで繰り返す。

## ●特徴

多少重みがあり、まとまりがありながらもバラケ性があるブレンド。仕上がりのタッチはややボソ。

## ●エサの大きさ



●くわせエサ  
グルテンα21  
50cc+水70cc



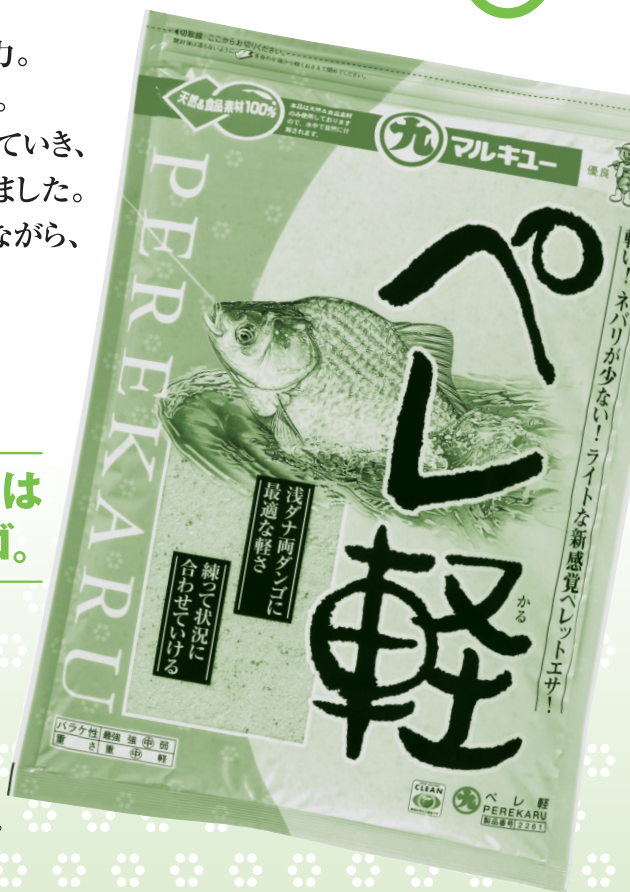
# 「ペレ軽」、デビューへ。

ペレットエサの特徴。それは、集魚力。  
重さ。ネバリ。縦方向へのバラケ性。  
そこから、重さと、強いネバリを削っていき、  
軽く、ソフトにまとまるエサに仕上げました。  
通常のダンゴエサと同じように使えながら、  
ペレットの集魚力で強く寄せ、  
明確なアタリを出してくれる。  
「ペレ軽」、デビューです。

いま、求められているのは  
ライト系のペレ宙ダンゴ。

かつては重めのペレットエサを使い、  
長竿で沖にいる大型を狙ったペレ宙の釣り。  
しかし現在の主流は、ペレットを麩で薄めて  
軽く軟らかい方向にし、比較的短い竿で、  
大型も平均サイズもまとめて釣り込み、  
重量を伸ばすスタイル。  
そんな釣りに適した、通常のダンゴエサ感覚の  
ペレットエサを、単品で簡単に作る事ができる。  
それが「ペレ軽」なのです。

●ペレ軽 400g



**丸** マルキユー株式会社

〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4 TEL.048-728-0909  
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

マルキユーへら鮎メールマガジンも、お申込はこちらから。 <http://www.marukyu.com/herabunatengoku/>

釣れるヒント満載!!  
へら鮎天国

